

2022年度 大学院神学研究科 シラバス

 西南学院大学大学院

講義科目一覧

キリスト教神学特論〔オムニバス〕	1
神学研究方法論〔オムニバス〕	2
旧約学特論Ⅰ〔日原 広志〕	3
旧約学特論Ⅱ〔日原 広志〕	4
神学演習〔日原 広志〕	5
新約学特論Ⅰ〔須藤 伊知郎〕	6
新約学特論Ⅱ〔須藤 伊知郎〕	7
バプテスト史特論Ⅰ〔金丸 英子〕	8
バプテスト史特論Ⅱ〔金丸 英子〕	9
神学演習〔金丸 英子〕	10
教会形成特論Ⅰ〔濱野 道雄〕	11
教会形成特論Ⅱ〔濱野 道雄〕	12
神学演習〔濱野 道雄〕	13
キリスト教神学実習〔濱野 道雄〕	14
キリスト教教育学特論Ⅰ〔野口 真〕	15
キリスト教教育学特論Ⅱ〔野口 真〕	16
牧会心理学特論Ⅰ〔才藤 千津子〕	17
牧会心理学特論Ⅱ〔才藤 千津子〕	18
神学演習〔才藤 千津子〕	19
キリスト教音楽特論Ⅰ〔麦野 達一〕	20
キリスト教音楽特論Ⅱ〔麦野 達一〕	21
臨床牧会実習〔松見 享子〕	22

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	キリスト教神学特論	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	日原、濱野、須藤、金丸、才藤、ロドリゲス、ファン			
【講義の到達目標及びテーマ】				
大学院博士前期課程の基礎科目とshちえ課程全体の導入となるように意図されており、研究テーマの設定やアプローチの仕方等、専門的研究の基礎的要素を身に着けることを目標とする。				
【講義概要】				
オムニバス形式で、神学各分野の専門研究者の「神学」への学問的スタンスを教授する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	本講義の目標と概要(金丸)			
2	バプテスト史の諸問題1(金丸)			
3	バプテスト史の諸問題2(金丸)			
4	キリスト教史の諸問題1(ロドリゲス)			
5	キリスト教史の諸問題2(ロドリゲス)			
6	牧会心理学の諸問題1(才藤)			
7	牧会心理学の諸問題2(才藤)			
8	旧約学の諸問題1(日原)			
9	旧約学の諸問題2(日原)			
10	新約学の諸問題1(須藤)			
11	新約学の諸問題2(須藤)			
12	教会形成の諸問題1(濱野)			
13	教会形成の諸問題2(濱野)			
14	現代神学の諸問題(ファン)			
【テキスト】				
各担当者がその都度課題に則したレジュメを配布する。				
【参考書・参考資料等】				
各担当者がレジュメで文献を紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
各自の研究テーマとの関連を常に念頭に置き、該当する聖書箇所や歴史的文献を読み込み、実践における課題を考えて準備し授業に参加する。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
講義終了義、参加者各自が各教員の講義からひとつを選び、興味をもった課題をさらに深め、追及して発展させるレポートを作成する。そのレポートにおけるテキストの精読理解度、研究方法の適切性、理論的展開力、神学的センス、日本語の完成度によって評価する。				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	神学研究方法論	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	日原、須藤、濱野、才藤、ロドリゲス、バークレー、金丸、ファン			
【講義の到達目標及びテーマ】				
カリキュラムポリシーに従い、大学院博士前期課程の基礎科目として課程全体の導入となるように意図されているので、研究テーマの設定やアプローチの仕方など、大学院レベルの研究のための基礎的素養を身につけることを目標とする。				
【講義概要】				
各教員によるオムニバス授業とする。今年度は閉講となった昨年度のテーマ「コロナ後を生きる教会」を再度設定する。今なお猛威をふるい、その渦中にある社会と教会について神学各分野の研究者のスタンス、アプローチの仕方を講義し、ディスカッションを行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	旧約学における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」1（日原）			
2	旧約学における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」2（日原）			
3	新約学における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」1（須藤）			
4	新約学における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」2（須藤）			
5	バプテスト史における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」1（金丸）			
6	バプテスト史における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」2（金丸）			
7	キリスト教史における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」1（バークレー）			
8	キリスト教史における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」2（ロドリゲス、）			
9	キリスト教史における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」2（ロドリゲス、）			
10	教会形成における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」1（濱野）			
11	教会形成における神学の方法と「コロナ後を生きる教会」2（濱野）			
12	牧会心理学の神学における方法と「コロナ後を生きる」教会1（才藤）			
13	牧会心理学の神学における方法と「コロナ後を生きる」教会2（才藤）			
14	現代神学の神学における方法と「コロナ後を生きる教会」（ファン）			
【テキスト】				
各担当者がその都度レジュメを準備し、配布する。				
【参考書・参考資料等】				
各担当者がレジュメで適切な文献を紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
学生各自の研究テーマとの関連と問題意識をもって事前に適切な問いをもって授業に参加する。教会において御言葉の宣教と魂の配慮、並びに教会形成を託される牧師として、求められるべき姿を模索できるようにする。同じ教員の2度目の講義では、前回の講義への質問を準備してクラスに出席すること。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
講義終了後、履修学生各自が教員の講義から一つを選び、本テーマに関する研究レポートを書くこと。そこにおける資料の精読、資料の取り扱いの妥当性、神学的適切性、論旨の明瞭性、日本語の文章力によって評価する。				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	旧約学特論Ⅰ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	日原 広志			
【講義の到達目標及びテーマ】				
カリキュラムポリシーの(2)に相当する。ディプロマポリシーに基づき、旧約学研究ならびに教会で旧約聖書から説教を行う上で有益なヘブライ語聖書の釈義に習熟する。研究者は論文のために、牧師献身者は説教のために、「自室で」「一人で」ヘブライ語聖書本文釈義の出来る自立した神学の学徒となることを目標とする。				
【講義概要】				
イザヤ書のヘブライ語テキスト(BHS)を、注解書、ヘブライ語辞典(BDB)、小林洋一編訳『BHSのマフテアハ』等を用いて釈義を行なう。方法論としては、BHSの脚注を参照しながらのヘブライ語本文の確立、欄外のマソラの解説、ヘブライ語単語の文法的分析と意味、本文の訳、本文の歴史的・批評的研究、および文学・社会学的批評等の釈義の手続きを踏みながらイザヤ書の意図とその神学的意義に迫ることを目指す。前期はイザヤ書1章以下の釈義を行なう。各自の分担で釈義を行ない、それを発表してもらい研究・討議を進める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イザヤ書1章1節(見出しとその意味)			
2	イザヤ書1章2節(天と地の召喚)			
3	イザヤ書1章3節(被造物と知恵)			
4	イザヤ書1章4節(災いの言葉、聖書の「罪」)			
5	イザヤ書1章5節(立ち返りを知らぬ民)			
6	イザヤ書1章6節(癒されることへの拒み)			
7	イザヤ書1章7節(帰結としての荒廃)			
8	イザヤ書1章8節(シオンの娘)			
9	イザヤ書1章9節(生存者)			
10	イザヤ書1章10節(ソドムとゴモラ)			
11	イザヤ書1章11節(主の飽きる祭儀)			
12	イザヤ書1章12節(行事と信仰)			
13	イザヤ書1章13節(虚空への献げ物)			
14	イザヤ書1章14節(神の疲弊)			
【テキスト】				
"ヘブライ語聖書本文(プリントを用意する)"Biblia Hebraica Stuttgartensia"(Hendrickson Publishers, 2006)"				
【参考書・参考資料等】				
Francis Brown, "The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon"(Hendrickson Publishers, 1996)／Abraham Even-shoshan, "A New Concordance of the Bible"(Kiryat Sefer, 1993)／A. E. Cowley(ed.), "Gesenius' Hebrew Grammar"(Clarendon Press, 1910)／小林洋一編訳『BHSのマフテアハ』(ヨルダン社、1999年)				
【事前・事後学習、時間等】				
邦訳の比較、疑問点の洗い出し、BDBによる単語の語彙調査、マフテアハによるマソラ・パルヴァ、マソラ・マグナ、アパラタスの調査を行い、本文にあたったからこそ見えて来たことについて各自分担発表ではレジメを用意して準備をしてくること。(3時間程度) 分担発表で出された質問・意見等を調べ、次回にそれらについて応答すること。(2時間程度)				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
1. 担当章句の発表とレジメの内容 70点(釈義の正確さ、妥当性、テーマの適切性、神学的知識の正確性、論旨の明晰性)2. ディスカッションにおける発言内容 30点(課題抽出力、神学的応答力、コミュニケーション力)				
【履修上の注意】				
旧約学で論文を書く者は必ず履修すること。また牧師献身者で、学部科目「ヘブライ語Ⅱ」のラスト10回、「旧約釈義C/D」をいずれも受講しなかった者は履修することが望ましい。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	旧約学特論Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	日原 広志			
【講義の到達目標及びテーマ】				
カリキュラムポリシーの(2)に相当する。ディプロマポリシーに基づき、旧約学研究ならびに教会で旧約聖書から説教を行う上で有益なヘブライ語聖書の釈義に習熟する。研究者は論文のために、牧師献身者は説教のために、「自室で」「一人で」ヘブライ語聖書本文釈義の出来る自立した神学の学徒となることを目標とする。				
【講義概要】				
イザヤ書のヘブライ語テキスト(BHS)を、注解書、ヘブライ語辞典(BDB)、小林洋一編訳『BHSのマフテアハ』等を用いて釈義を行なう。 方法論としては、BHSの脚注を参照しながらのヘブライ語本文の確立、欄外のマソラの解説、ヘブライ語単語の文法的分析と意味、本文の訳、本文の歴史的・批評的研究、および文学・社会学的批評等の釈義の手続きを踏みながらイザヤ書の意図とその神学的意義に迫ることを目指す。 後期はイザヤ書1章後半部の釈義を行なう。各自の分担で釈義を行ない、それを発表してもらい研究・討議を進める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イザヤ書1章15節(拒絶された祈り)			
2	イザヤ書1章16節(語呂合わせ、偽りの為すべきこと)			
3	イザヤ書1章17節(真に為すべきこと)			
4	イザヤ書1章18節(主の迫りと招き)			
5	イザヤ書1章19節(従う者の幸い)			
6	イザヤ書1章20節(拒む者の災い)			
7	イザヤ書1章21節(ミシュパートとツエデク)			
8	イザヤ書1章22節(キアスムス、金滓)			
9	イザヤ書1章23節(為政者の堕落)			
10	イザヤ書1章24節(折り返し点としてのホーイ)			
11	イザヤ書1章25節(純化と回復)			
12	イザヤ書1章26節(外枠としてのミシュパートとツエデク)			
13	イザヤ書1章27節(後代の付加とその機能)			
14	イザヤ書1章28節(後代の付加とその機能)			
【テキスト】				
"ヘブライ語聖書本文(プリントを用意する)" "Biblia Hebraica Stuttgartensia"(Hendrickson Publishers, 2006)"				
【参考書・参考資料等】				
Francis Brown, "The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon"(Hendrickson Publishers, 1996)／Abraham Even-shoshan, "A New Concordance of the Bible"(Kiryat Sefer, 1993)／A. E. Cowley(ed.), "Gesenius' Hebrew Grammar"(Clarendon Press, 1910)／小林洋一編訳『BHSのマフテアハ』(ヨルダン社、1999年)				
【事前・事後学習、時間等】				
邦訳の比較、疑問点の洗い出し、BDBIによる単語の語彙調査、マフテアハによるマソラ・パルヴァ、マソラ・マグナ、アパラタスの調査を行い、本文にあたったからこそ見えて来たことについて各自分担発表ではレジュメを用意して準備をしてくること。(3時間程度)分担発表で出された質問・意見等を調べ、次回にそれらについて応答すること。(2時間程度)				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
1. 担当章句の発表とレジュメの内容 70点(釈義の正確さ、妥当性、テーマの適切性、神学的知識の正確性、論旨の明晰性) 2. ディスカッションにおける発言内容 30点(課題抽出力、神学的応答力、コミュニケーション力)				
【履修上の注意】				
旧約学で論文を書く者は必ず履修すること。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	神学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	日原広志			
【講義の到達目標及びテーマ】				
カリキュラム・ポリシー(4)「研究指導(修士論文作成)」に相当する。ディプロマ・ポリシーに基づき専門職業人にふさわしい知見と技術を習得し、修士論文において結実させることを目標とする。特に旧約学部門において修士論文を作成する学生が、適切な文献を収集し、文献を精読し、適切に要約し、また、学術論文を具体的に書き上げることができるようになること。				
【講義概要】				
30回の内容は旧約聖書学の諸方法論5回、研究史18回、旧約聖書アラム語文法7回である。発題方法はレジュメと板書による発表。進め方は事前に割り振った担当者による発題、他受講生および教員によるコメント、担当者によるカウンターコメント、抽出された神学的問題についての全体討議の流れである。また随時論文の進捗発表を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	旧約聖書釈義の手引き(1)本文批評、文法批評	15	研究史(10)(Archaeology)	
2	旧約聖書釈義の手引き(2)資料批評、伝承史批評	16	研究史(11)(Ideology)	
3	旧約聖書釈義の手引き(3)形態史批評、編集史批評	17	研究史(12)(Theology and Ideology)	
4	旧約聖書釈義の手引き(4)歴史的批評、文学批評	18	研究史(13)(Deuteronomic Ideology)	
5	旧約聖書釈義の手引き(5)神学的省察、正典批評	19	研究史(14)(Biblical Exegesis and Ideology)	
6	研究史(1)(The Bible, History)	20	研究史(15)(Postmodernism)	
7	研究史(2)(Apologetics)	21	研究史(16)(Reader-Response Theories)	
8	研究史(3)(New Profile of Discussion)	22	研究史(17)(Postmodernism and Theology)	
9	研究史(4)(Biblical Criticism)	23	研究史(18)(Conclusion)	
10	研究史(5)(The Idea of Historical Criticism)	24	アラム語(1)(The Texts and the Language)	
11	研究史(6)(The Origins of the Pentateuch)	25	アラム語(2)(The Writing)	
12	研究史(7)(The History of Israel)	26	アラム語(3)(Remarks on Phonology)	
13	研究史(8)(The Revisionist View)	27	アラム語(4)(The Pronoun)	
14	研究史(9)(The Second Temple Period)	28	アラム語(5)(The Noun and the Adjective)	
【テキスト】				
小林洋一編『BHSのマフテアハ』(ヨルダン社、1999年); James Barr, "History and Ideology in the Old Testament: Biblical Studies at the End of a Millennium" (Oxford University Press, 2000); Frank Rosenthal, "A Grammar of Biblical Aramaic" (Harrassowitz, 1983)				
【参考書・参考資料等】				
なし				
【事前・事後学習、時間等】				
・「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当箇所を、講義前に必ず読んでくること。(3時間程度)				
【課題の種類・内容】				
・毎回のクラスの初回に、前回の内容についての小テストを実施するので、必ず復習して授業に臨むこと(2時間程度)				
【課題に対するフィードバックの方法】				
・オフィスアワーを活用する(曜限については受講生と相談して定める)				
【成績評価方法・基準】				
クラスにおける発表において、文献精読・テーマ発題が正確であること、神学的に適切で、批判と問題提起が妥当であること(70点)、クラスにおける議論において、発言の積極性、明晰性(30点)、合計100点。				
【履修上の注意】				
特に無し				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	新約学特論I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	須藤 伊知郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義の目的は、受講生が聖書学の最新の研究成果に触れ、その方法論を学んで、各自の研究課題を遂行する基盤を構築することにある。受講生が釈義の手順、すなわち試訳、本文批評、伝承と編集の分析、各節の釈義の全過程を独力で遂行し、釈義の結果を踏まえて、牧師、伝道者としてのキャリア形成に不可欠である宣教の課題を把握できるようになること、さらに聖書学の成果と対話しつつ独自の解釈を展開できるようになることが到達目標である。				
【講義概要】				
今年度前期はマタイによる福音書5,21-48のいわゆる「反対命題」に焦点を当てて読んでいく。イエス伝承の語り手、聞き手、福音書記者マタイ、そして福音書の初読者はイエスのトーラー解釈をイスラエル民族の救い、異邦人諸民族の救いという観点でどう理解したのか、という問いを共に追求していきたい。参加者は一冊ずつ注解書を担当する。輪番で試訳と釈義を発表した後、クラス全体で討議し、最後に釈義に基づいて宣教の課題を分かち合う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	マタイ5,21-26 殺人 (1) 試訳、本文批評			
2	マタイ5,21-26 同 (2) 伝承と編集、各節の釈義			
3	マタイ5,21-26 同 (3) 宣教の課題			
4	マタイ5,27-32 姦淫と離縁 (1) 試訳、本文批評			
5	マタイ5,27-32 同 (2) 伝承と編集、各節の釈義			
6	マタイ5,27-32 同 (3) 宣教の課題			
7	マタイ5,33-37 誓い (1) 試訳、本文批評、伝承と編集			
8	マタイ5,33-37 (2) 各節の釈義、宣教の課題			
9	マタイ5,38-42 復讐 (1) 試訳、本文批評			
10	マタイ5,38-42 (2) 伝承と編集、各節の釈義			
11	マタイ5,38-42 (3) 宣教の課題			
12	マタイ5,43-48 愛敵 (1) 試訳、本文批評			
13	マタイ5,43-48 (2) 伝承と編集、各節の釈義			
14	マタイ5,43-48 (3) 宣教の課題			
【テキスト】				
Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 28. Aufl. Stuttgart 2012／K. Aland und B. Aland, Synopsis Quattuor Evangeliorum, 15. Aufl. Stuttgart 1996, 4. korr. Dr., Stuttgart 2005／F. Neirynck, Q-Parallels. Q-Synopsis and IQP/CritEd Parallels, Leuven 2001／『聖書 聖書協会共同訳』（日本聖書協会、2018年）／新約聖書翻訳委員会、佐藤 研訳『新約聖書 I マルコによる福音書・マタイによる福音書』（岩波書店、1995年）／田川建三訳著『新約聖書 訳と註1 マルコ福音書／マタイ福音書』（作品社、2008年）／山田耕太『Q文書 訳文とテキスト・注解・修辞学的研究』（教文館、2018年）				
【参考書・参考資料等】				
荒井 献・川島貞雄監修『四福音書対観表』（教文館、2000年）／荒井 献・H.J. マルクス監修 川島貞雄・大貫 隆編『ギリシア語新約聖書釈義事典』全3巻(教文館、1993-95年)／荒井 献・石田友雄編『旧約新約聖書大事典』（教文館、1989）／樋口 進・中野 実編『聖書学用語辞典』（日本キリスト教団出版局、2008年）／浅野淳博・伊東寿泰・須藤伊知郎・辻 学・中野 実・廣石 望・前川 裕・村山由美『新約聖書解釈の手引き』（日本キリスト教団出版局、2016年）； Davies, W. D./Allison, D. C. Jr., Matthew, 3 vols., ICC, London 1988-97, 22004; France, R. T., The Gospel of Matthew, NICNT, Grand Rapids 2007; Gundry, R. H., Matthew, Grand Rapids 1982; Hagner, D. A., Matthew, 2 vols., WBC, Dallas 1993/95; Keener, C. S., A Commentary on the Gospel of Matthew, Grand Rapids 1999; Nolland, J., The Gospel of Matthew, NIGTC, Grand Rapids 2005; Fiedler, P., Das Mattha'usevangelium, ThKNT, 2006; Frankemölle, H., Mattha'us: Kommentar, 2 Bde, 1994/97; Gnllka, J., Das Mattha'usevangelium, HThK, Freiburg/Berlin/Wien 1986/88; Konradt, M., Das Evangelium nach Mattha'us, NTD, 2015; Luz, U., Das Evangelium nach Mattha'us, 4 Bd., EKK, 1985-2002、その他は教室で紹介。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前にテキストの該当箇所を試訳し、担当の注解書を手がかりに釈義して授業に臨むこと(2時間程度)。事後、授業での試訳の発表と討論に基づいて自分の試訳を修正し、当該箇所の釈義が各自の研究課題にどう関わるかを検討すること。(1時間程度)				
【課題の種類・内容】				
担当の注解書を熟読し、その要点をまとめること(Moodleに提出)。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に要点を報告させ、その場で応答する。				
【成績評価方法・基準】				
担当回の発表が釈義の手順に沿ってなされ、先行研究(諸注解書)と対話した上でどこまで独自の視点を提示できているか(50%)、ディスカッションにおける発言内容(30%)、受講態度(20%)に基づいて行う。				
【履修上の注意】				
ギリシア語文法既習であること。あらゆる先入観を排し、自分が覚えている翻訳も一旦忘れて、テキストが語っている言葉に集中すること。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	新約学特論Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	須藤 伊知郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義の目的は、受講生が聖書学の最新の研究成果に触れ、その方法論を学んで、各自の研究課題を遂行する基盤を構築することにある。受講生が釈義の手順、すなわち試訳、本文批評、伝承と編集の分析、各節の釈義の全過程を独力で遂行し、釈義の結果を踏まえて、牧師、伝道者としてのキャリア形成に不可欠である宣教の課題を把握できるようになること、さらに聖書学の成果と対話しつつ独自の解釈を展開できるようになることが到達目標である。				
【講義概要】				
今年度後期はマタイによる福音書6,1-18の「施し、祈り、断食」の段落に焦点を当てて読んでいく。イエス伝承の語り手、聞き手、福音書記者マタイ、そして福音書の初読者はイエスのメッセージをイスラエル民族の救い、異邦人諸民族の救いという観点でどう理解したのか、という問いを共に追求していきたい。参加者は一冊ずつ注解書を担当する。輪番で試訳と釈義を発表した後、クラス全体で討議し、最後に釈義に基づいて宣教の課題を分かち合う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	マタイ6,1-4 施し (1) 試訳、本文批評			
2	マタイ6,1-4 同 (2) 伝承と編集、各節の釈義			
3	マタイ6,1-4 同 (3) 宣教の課題			
4	マタイ6,5-8 祈る時 (1) 試訳、本文批評			
5	マタイ6,5-8 同 (2) 伝承と編集、各節の釈義			
6	マタイ6,5-8 同 (3) 宣教の課題			
7	マタイ6,9-13 主の祈り (1) 試訳、本文批評			
8	マタイ6,9-13 同 (2) 伝承と編集			
9	マタイ6,9-13 同 (3) 各節の釈義			
10	マタイ6,9-13 同 (4) 宣教の課題			
11	マタイ6,14-15 赦し (1) 試訳、本文批評			
12	マタイ6,14-15 同 (2) 伝承と編集、各節の釈義、宣教の課題			
13	マタイ6,16-18 断食 (1) 試訳、本文批評、伝承と編集			
14	マタイ6,16-18 同 (2) 各節の釈義、宣教の課題			
【テキスト】				
Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 28.Aufl. Stuttgart 2012／K. Aland und B. Aland, Synopsis Quattuor Evangeliorum, 15.Aufl. Stuttgart 1996, 4. korr. Dr., Stuttgart 2005／F. Neirynck, Q-Parallels. Q-Synopsis and IQP/CritEd Parallels, Leuven 2001／『聖書 聖書協会共同訳』(日本聖書協会、2018年)／新約聖書翻訳委員会、佐藤 研訳『新約聖書 I マルコによる福音書・マタイによる福音書』(岩波書店、1995年)／田川建三訳著『新約聖書 訳と註1 マルコ福音書／マタイ福音書』(作品社、2008年)／山田耕太『Q文書 訳文とテキスト・注解・修辞学的研究』(教文館、2018年)				
【参考書・参考資料等】				
荒井 献・川島貞雄監修『四福音書対観表』(教文館、2000年)／荒井 献・H.J.マルクス監修 川島貞雄・大貫 隆編『ギリシア語新約聖書 釈義事典』全3巻(教文館、1993-95年)／荒井 献・石田友雄編『旧約新約聖書大事典』(教文館、1989)／樋口 進・中野 実編『聖書学用語辞典』(日本キリスト教団出版局、2008年)／浅野淳博・伊東寿泰・須藤伊知郎・辻 学・中野 実・廣石 望・前川 裕・村山由美『新約聖書 解釈の手引き』(日本キリスト教団出版局、2016年)；Davies, W. D./Allison, D. C. Jr., Matthew, 3 vols., ICC, London 1988-97, 22004；France, R.T., The Gospel of Matthew, NICNT, Grand Rapids 2007；Gundry, R. H., Matthew, Grand Rapids 1982；Hagner, D. A., Matthew, 2 vols., WBC, Dallas 1993/95；Keener, C. S., A Commentary on the Gospel of Matthew, Grand Rapids 1999；Nolland, J., The Gospel of Matthew, NIGTC, Grand Rapids 2005；Fiedler, P., Das Mattha"usevangelium, ThKNT, 2006；Frankem"lle, H., Mattha"us: Kommentar, 2 Bde, 1994/97；Gnilka, J., Das Mattha"usevangelium, HThK, Freiburg/Berlin/Wien 1986/88；Konradt, M., Das Evangelium nach Mattha"us, NTD, 2015；Luz, U., Das Evangelium nach Mattha"us, 4 Bd., EKK, 1985-2002、その他は教室で紹介。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前にテキストの該当箇所を試訳し、担当の注解書を手がかりに釈義して授業に臨むこと(2時間程度)。事後、授業での試訳の発表と討議に基づいて自分の試訳を修正し、当該箇所の釈義が各自の研究課題にどう関わるかを検討すること。(1時間程度)				
【課題の種類・内容】				
担当の注解書を熟読し、その要点をまとめること(Moodleに提出)。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業中に要点を報告させ、その場で応答する。				
【成績評価方法・基準】				
担当回の発表が釈義の手順に沿ってなされ、先行研究(諸注解書)と対話した上でどこまで独自の視点を提示できているか(50%)、ディスカッションにおける発言内容(30%)、受講態度(20%)に基づいて行う。				
【履修上の注意】				
ギリシア語文法既習であること。あらゆる先入観を排し、自分が覚えている翻訳も一旦忘れて、テキストが語っている言葉に集中すること。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	バプテスト史特論I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	金丸英子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
将来、バプテスト教会の牧師となることを想定し、「バプテストという方法で・キリストの体なる・教会をたてる」ことを念頭に置きながら学習する。そのために、まずバプテスト派の教会理解をより専門的に理解する。				
【講義概要】				
プロテスタント宗教改革から誕生したバプテスト派の教会理解を、プロテスタント主流派の教会理解を学ぶことを通してより深く学ぶ。プロテスタントの特徴的な教会理解とバプテストの教会理解を比較して、教会についてのバプテストの主張を整理し、理解する				
。 授業計画内容				
No.	講義計画			
1	バプテスト派の主たる関心としての教会			
2	宗教改革の思想を理解する：序論①			
3	宗教改革の思想を理解する：序論②			
4	人文主義と宗教改革① エラスムスとルネサンスの概念			
5	人文主義と宗教改革② 人文主義と宗教改革			
6	聖書に戻る① 中世における聖書			
7	聖書に戻る② 聖書と宗教改革			
8	これまでの総括①			
9	sacramentの教理① 伝統的な理解：教会との関連で			
10	sacramentの理解② ルターとツヴィングリ			
11	sacramentの理解③ カルヴァン			
12	教会論① 背景：ドナトゥス派論争			
13	教会論② 宗教改革の教会観の文脈			
14	どれまでの総括②			
【テキスト】				
マクグラス 『宗教改革の思想』（教文館）				
【参考書・参考資料等】				
宗教改革著作集2「エラスムス」、同3「ルターとその周辺I」、同5「ツヴィングリとその周辺I」				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の講義で扱うテキストの精読				
【課題の種類・内容】				
毎回の予習範囲の概要をまとめる				
【課題に対するフィードバックの方法】				
各回のテーマとテキスト精読に基づく討論による				
【成績評価方法・基準】				
毎回のテキスト精読と期末レポート				
【履修上の注意】				
特に定めない				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	バプテスト史特論II	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	金丸英子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
バプテストの教会理解を深め、将来の教会形成に生かす				
【講義概要】				
宗教改革の教会理解に基づき、バプテストの教会理解に努める。				
【講義計画内容】				
No.				
1	教会に関するルターの見解			
2	急進派の教会論			
3	ルターの教会論と急進派の教会論			
4	カルヴァンの教会理解① 教会の二つのしるし			
5	カルヴァンの教会理解② 教会の役割に関する考え方			
6	イングランド国教会の教会理解① 十箇条と三十九箇条			
7	ピューリタンの教会理解			
8	分離派の教会理解①			
9	分離派とバプテスト：バプテストが求めた教会理解			
10	バプテストの教会① 各個教会の自主独立：孤立と分断をこえて			
11	バプテストの教会② 民主的な教会政治と運営：ポピュリズムを超えて			
12	バプテストの教会③ 万人祭司について			
13	バプテストの教会④ 「信徒の教会」とは何か			
14	総括：イエス・キリストの体なる教会を・バプテストという方法でたてる			
【テキスト】				
マクグラス 『宗教改革の思想』（教文館）				
【参考書・参考資料等】				
宗教改革著作集「再洗礼派」、出村彰「スイス教会改革史研究」（日本キリスト教団出版局）				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の授業で扱う予習範囲を読む				
【課題の種類・内容】				
読んで来た内容の簡単なレポートをする				
【課題に対するフィードバックの方法】				
予習範囲の内把握とそれに基づくディスカッション				
【成績評価方法・基準】				
毎回の読書課題への取り組み、授業への参加度、期末レポート				
【履修上の注意】				
講義での学びを常に実践にフィードバックする習慣をつける				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	神学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	金丸英子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
キリスト教会における幼児洗礼の発生と発展を学び、バプテストにとってのバプテスマ理解を探究する・				
【講義概要】				
キリスト教の伝統的なバプテスマ理解を把握し、その線上でバプテストにとってのバプテスマについて、礼典論と教会論の面から考えてゆく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	What has Infant Baptism done to Baptism? Introduction	15	Baptism and the Baptists: Chapter2 Common Ground (The Mode of Baptism, The Subjects of Baptism)	
2	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter 1 Infant Baptism in the Hands of Christendom	16	Baptism and the Baptists: Chapter2 Common Ground (The Subjects of Baptism)	
3	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter 1 Infant Baptism in the Hands of Christendom	17	Baptism and the Baptists: Chapter2 Common Ground (The Theology of Baptism)	
4	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter 2 Baptism and Profession of Faith	18	Baptism and the Baptists: Chapter2 Common Ground (The Theology of Baptism)	
5	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter 2 Baptism and Profession of Faith	19	第2章の総括とディスカッション	
6	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter2 Baptism and Profession of Faith	20	Baptism and the Baptists: Chapter4 The Theology of Baptism	
7	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter3 Baptism in Mission: Catehumenate and Discipleship	21	Baptism and the Baptists: Chapter4 The Theology of Baptism	
8	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter3 Baptism in Mission: Catehumenate and Discipleship	22	Baptism and the Baptists: Chapter4 The Theology of Baptism	
9	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter3 Baptism in Mission: Catehumenate and Discipleship	23	第3章の総括とディスカッション	
10	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter4 Baptism: Effective Sign, or Merely Symbolic?	24	Baptism and the Baptists: Chapter 9 New Perspectives and Development in the Theology of Baptism	
11	問題の抽出	25	Baptism and the Baptists: Chapter 9 New Perspectives and Development in the Theology of Baptism	
12	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter4 Baptism: Effective Sign, or Merely Symbolic?	26	Baptism and the Baptists: Chapter 9 New Perspectives and Development in the Theology of Baptism	
13	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter4 Baptism: Effective Sign, or Merely Symbolic?	27	第9章の総括とディスカッション	
14	What has Infant Baptism done to Baptism?: Chapter4 Baptism: Effective Sign, or Merely Symbolic?	28	教会にとってバプテスマとは何か	
【テキスト】				
David F. Wright, <i>What has Infant Baptism done to Baptism? (Paternoster, 2005)</i> , Anthony R. Cross, <i>Baptism and the Baptists (Paternoster, 2000)</i>				
【参考書・参考資料等】				
斎藤・高野編『バプテストの信仰告白 改訂版』(ヨルダン社、1980年)、マクグラス著・高柳訳『宗教改革の思想』(教文館、2000年)				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の精読範囲を読んでくる。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
精読範囲の和訳発表とディスカッションでフィードバックを試みる。				
【成績評価方法・基準】				
毎回の読書課題とディスカッション				
【履修上の注意】				
修士論文のテーマと切り結ぶつもりで、意識的に英語文献を読むこと。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	教会形成特論I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	濱野 道雄			
【講義の到達目標及びテーマ】				
将来、キリスト教会で、牧師、宣教師などの指導者として働くことを希望する学生が、以下のスキルを取得できるよう、専門的知識を与える。 ＊教会の働きをトータルに把握する。＊既存の働きを評価する。＊新しいプログラムを展開・実践することにおいて指導力を発揮する。＊専門職業人としてコミュニケーション能力をもって適切に教会形成、管理の仕事こなせるようにする。				
【講義概要】				
キリスト教会の形成現場で起こり、出会うであろう諸問題・課題と、それに対処しうる視点とリーダーシップスキルについて、毎回資料を事前に提示するので、受講生はそれを事前に読む。授業時には発表者を立て、解説とディスカッションを行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション			
2	宣教・教会・牧師			
3	なぜ宣教するのか			
4	どこで、誰と宣教するのか			
5	何を宣教するのか			
6	牧師の働き：コーディネーター			
7	新任時について			
8	就任、按手等			
9	礼拝と説教			
10	礼典：バプテスマ			
11	礼典：主の晩餐			
12	教会形成に関わる諸式：教会組織等			
13	教会形成に関わる諸式：転出、転入等			
14	人生に関わる諸式：幼児祝福～病床の祈り			
【テキスト】				
宣教研究所編『バプテスト教会において豊かな式を形作る言葉と祈りのためにー視点と参考例』、日本バプテスト連盟 宣教研究所、2015 金子敬『バプテスト教会における牧師の働き 一牧師の現場から』、日本バプテスト連盟 宣教研究所、2009 濱野道雄『教会アドミニ研究所』『Ministry』、キリスト新聞社、2012-2015(『教会のマネジメント』キリスト新聞社、2020)				
【参考書・参考資料等】				
W. ウィリモン(越川弘英訳)『牧師』新教出版社、2007 越川弘英・松本敏之監修『牧師とは何か』日本キリスト教団出版局、2013				
【事前・事後学習、時間等】				
事前にテキストを指定するので、各自読み、疑問点などを整理しておくこと。またそのテキストの要約と考察をする発表者を毎回立てるので、発表者は準備してくること。(1.5時間程度) 講義、クラス討議で教えられたこと、自分の従来の意見がどのように変えられたかを神学的に熟慮し、次回のクラスで質問する準備とすること。(1時間程度)				
【課題の種類・内容】				
発表とその準備。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表に対しては授業で応答する。				
【成績評価方法・基準】				
担当する発表内容によって評価するが、評価基準は神学的知識の正確性、論旨の明晰性である(70点)。加えてクラスにおいて論理的に適切で、積極的な意見を発表できるか、問いに対して神学的に応答できるで参加度・クラス貢献度を計り、コミュニケーション力を吟味する(30点)。				
【履修上の注意】				
教会形成論 I は教会形成論 II に継続する。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	教会形成特論Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	濱野 道雄			
【講義の到達目標及びテーマ】				
将来、キリスト教会で、牧師、宣教師などの指導者として働くことを希望する学生が、以下のスキルを取得できるよう、専門的知識を与える： ＊教会の働きをトータルに把握する。 ＊既存の働きを評価する。 ＊新しいプログラムを展開・実践することにおいて指導力を発揮する。 ＊専門職業人としてコミュニケーション能力をもって適切に教会形成、管理の仕事をこなせるようにする。				
【講義概要】				
キリスト教会の形成現場で起こり、出会うであろう諸問題・課題と、それに対処しうる視点とリーダーシップスキルについて、毎回資料を事前に提示するので、受講生はそれを事前に読み、授業時には発表者を立て、解説とディスカッションを行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	信仰告白の相互検討: 各自発表			
2	人生に関わる諸式: 結婚関連			
3	人生に関わる諸式: 幼児祝福～病床の祈り			
4	人生に関わる諸式: 結婚関連			
5	人生に関わる諸式: 葬儀			
6	リーダーシップと執事会			
7	スチュワードシップと会計			
8	宗教法人			
9	事務管理			
10	兼牧・兼職・辞任、牧師の働きについてのまとめ			
11	牧師の自己理解(1) 召命と疲弊			
12	牧師の自己理解(2) バプテスト教会の牧師として			
13	牧師の自己理解(3) ハラスメント			
14	赴任に向けて: 各自発表			
【テキスト】				
宣教研究所編『バプテスト教会において豊かな式を形作る言葉と祈りのためにー視点と参考例』、日本バプテスト連盟 宣教研究所、2015 宣教研究所編『教会と暴力 I 』、『教会と暴力 II 』、日本バプテスト連盟 宣教研究所、2011 金子敬『バプテスト教会における牧師の働き ー牧師の現場から、』日本バプテスト連盟 宣教研究所、2009				
【参考書・参考資料等】				
松見俊・鳥山美恵『活力ある教会作り』(日本バプテスト連盟出版部) 1995 鈴木重義『新・教会の会計』ヨルダン社、1999				
【事前・事後学習、時間等】				
事前にテキストを指定するので、各自読み、疑問点などを整理しておくこと。またそのテキストの要約と考察をする発表者を毎回立てるので、発表者は準備してくること。(1.5時間程度) 講義、クラス討議で教えられたこと、自分の従来の意見がどのように変えられたかを神学的に熟慮し、次回のクラスで質問する準備とすること。(1時間程度)				
【課題の種類・内容】				
発表とその準備。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表に対しては授業で応答する。				
【成績評価方法・基準】				
担当する発表内容によって評価するが、評価基準は神学的知識の正確性、論旨の明晰性である(70点)。加えてクラスにおいて論理的に適切で、積極的な意見を発表できるか、問いに対して神学的に応答できるで参加度・クラス貢献度を計り、コミュニケーション力を吟味する(30点)。				
【履修上の注意】				
基本的に教会形成特論Ⅰをすでに履修していることが望ましい。内容によっては守秘義務を伴う事がある。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	神学演習		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	濱野 道雄				
【講義の到達目標及びテーマ】					
* キリスト教倫理的視点による(修士)論文を作成する際の、必要な方法、情報、視点を共有する。					
【講義概要】					
テーマを宣教論の地平を見据えた、「教会と教派の多様性」および「青年伝道と教会形成」とし、前半は論文のための先行研究検討として、クリストファー・J・H・ライト『神の宣教』第1・2・3巻、Graham Cray, Youth Congregations and the Emerging Church、および Paul M. Tilley, Emerging Church and Youth Ministry Praxisを講読する。 後半は各自の修士論文を数回に分けて、発表、解説、相互検討を繰り返していく。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション: 神学論文とは何か		15	Tilley, Chapter 2: The Godfather	
2	ライト、序文		16	ライト、第七章、万民の救いのために神に特別に選ばれた民	
3	Cray, Introduction / Belonging to the Church		17	Tilley, Chapter 3: Implication for Youth Ministry	
4	ライト、第一章 宣教的な聖書解釈を求めて		18	ライト、第八章、神の贖いのモデル-出エジプト	
5	Cray, The New Context for Youth Mission / Pragmatic Missiology		19	Tilley, Chapter 4: Conclusion	
6	ライト、第二章、宣教的聖書解釈の形成		20	ライト、第九章、神による回復のモデル	
7	Cray, Conformed to the World? / Missionary Ecclesiology		21	ライト、第十章、神の宣教的契機の範囲	
8	ライト、第三章、イスラエルに自らを知らせる生ける神		22	ライト、第十一章、神に遣わされた民の生き方	
9	Cray, A Baptism of Imagination / The Joy and the Pain		23	ライト、第十二章、宣教と神のものである地球	
10	ライト、第四章、生ける神がイエス・キリストにおいてご自身を現された		24	ライト、第十三章、宣教と神の像	
11	Tilley, introduction		25	ライト、第十四章、旧約の幻における神と諸国民	
12	ライト、第五章、生ける神は偶像礼拝と対峙する		26	ライト、第十五章、新約聖書の宣教に見る神と諸国民 ・ 結びの言葉	
13	Tilley, Chapter 1: Emerging Eschatology		27	修士論文の構想(1)	
14	ライト、第六章、祝福となるべく神の選びの民		28	修士論文の構想(2)	
【テキスト】					
クリストファー・J・H・ライト(東京ミッション研究所訳)『神の宣教』第1巻(2012)、第2巻(2016)、第3巻(2016)、東京ミッション研究所 Graham Cray, Youth Congregations and the Emerging Church, Grove Books Limited, 2002 Paul M. Tilley, Emerging Church and Youth Ministry Praxis, 2014					
【参考書・参考資料等】					
David Mark Rathel, Baptists and the Emerging Church Movement, Wipf & Stock, 2014					
【事前・事後学習、時間等】					
毎回の該当箇所を事前に読んでくること。発表担当者を毎回立てる。英文の場合、該当箇所を翻訳してくること(3時間程度)。 内容を再度整理し、その射程について考察すること。(1時間程度)					
【課題の種類・内容】					
発表とその準備。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
発表に対しては授業で応答する。					
【成績評価方法・基準】					
発表内容(80%)、発言や資料提供によるクラスへの貢献度(20%)					
【履修上の注意】					
濱野の指導のもとでの修士論文作成者を受講者として想定している。					

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	キリスト教神学実習	通年・前期・後期 集中	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	濱野 道雄			
【講義の到達目標及びテーマ】				
キリスト教神学実習は、神学研究科生が在学中、神学研究科委員会が承認する教会・病院・福祉施設または実践神学担当教員が承認するフィールドワークにおいて一定期間実習を行い、次のスキルを得ることを目標とする： ＊神学研究において修得した知識を実践を踏まえて学問的に検討できる。 ＊キリスト教の指導者（牧師、宣教師、専門主事等）あるいはその分野での専門職業人となる知識と技術を得る。				
【講義概要】				
実習は、神学研究科委員会が承認する施設、または実践神学担当教員が承認するフィールドにおいて行い、その期間は前後のセッションを含めて30コマ相当とする。各自プロジェクトを立案したら指導教員の許可を受け、実習後は実習ノートとインタビューに基づき、実習内容を共に神学的に吟味する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	実習先の調査（研究生主体）			
2	実習プロジェクトの目的の明確化、適性判断を経て、実習先を決定する（担当教員と協議すること）			
3	実習先との連絡、日程調整、スケジュール作成（研究生）、正式依頼状発送（実践神学担当教員）			
4	実習（1）実習に参加し、「実習ノート」を書き、それをもって実習先で指導を受ける			
5	実習（2）同上			
6	実習（3）同上			
7	実習（4）同上			
8	実習（5）同上			
9	実習（6）同上			
10	実習（7）同上			
11	実習（8）同上			
12	実習（9）同上			
13	実習（10）同上			
14	実習終了後、実習ノート、実習先指導者の評価に基づき、実践神学担当者と面談、インタビューをし、相互評価を行う			
【テキスト】				
実習先指導者（牧師、医師、カウンセラー、施設長等）が資料を提供する				
【参考書・参考資料等】				
実習先担当者が配布するが、実習内容によっては実践神学担当者は予備知識となる文献を与える				
【事前・事後学習、時間等】				
実習前に、十分その分野の文献・資料に目を通し、下調べを行い、何を観察し、実体験したいのか焦点を定めておくこと。相手があることなので人間的な配慮を行い対応する心構えをしておくこと。（3時間程度） 実習終了後、いままでの自分の神学的知見あるいは予断・偏見がいかに変化したかを神学的に熟慮し、実践神学担当者とのインタビューに応答する準備をすること。（3時間程度）				
【課題の種類・内容】				
計画書、実習、実習ノート、報告書作成。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
上記全てに対して実践神学担当者から、また実習と実習ノートに対しては実習先指導者から面談において応答がなされる。				
【成績評価方法・基準】				
（1）当該教会の牧師あるいは施設長は指導を受けた研究生の評価に関する報告を所定の実習評価書に記入し、実践神学担当者に提出する。（2）神学担当教員はこの評価書に基づき、実習ノートを検証、インタビューを行い、適切な自己評価か、神学的熟慮が十分であるか、コミュニケーションスキルが備わっていたかによって、口頭試問の上、所定の単位を認定する。				
【履修上の注意】				
採点上、後期集中講義扱いであるが、5月中に実践神学担当者と面談し、プロジェクトについて確定し、原則、夏休み中に実習を行うこと。				

2020年度大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	キリスト教教育学特論Ⅰ	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	野口 真			
【講義の到達目標及びテーマ】				
キリスト教教育の原理や理論についての理解を進めつつ、現実の課題と向き合う力を養う。特に、現代日本におけるキリスト教教育の意味を考え、その役割と課題とを明らかにしていく。				
【講義概要】				
キリスト教教育の原理や理論について、自らの研究課題との関連の内にテーマを定め研究を進める。また、教会教育及び学校教育の実践を手がかりとしながら、現代日本が抱える諸課題に対して、キリスト教教育が果たしうる役割を探っていく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション-本科目の概要と展開			
2	西洋教育思想とキリスト教教育－古代・中世			
3	西洋教育思想とキリスト教教育－近世			
4	教育と神学－神の像問題			
5	教育と神学－ヒューマニズム思想			
6	研究発表①－教会教育			
7	研究発表②－学校教育			
8	キリスト教教育と道徳－宗教的情操			
9	キリスト教教育と道徳－畏敬の念			
10	日本的宗教観と教育の課題－宗教的曖昧性			
11	日本的宗教観と教育の課題－スピリチュアリティ			
12	授業プラン発表①－教会教育			
13	授業プラン発表②－学校教育			
14	まとめ－残された課題の整理			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
学校伝道研究会編「教育の神学」, ヨルダン社, 1987 その他の参考資料は講義の中で提示する				
【事前・事後学習、時間等】				
前時までに提示した課題について、各自で資料などにあたり、自分の考えや疑問をまとめた上で授業に臨むこと。				
【課題の種類・内容】				
研究発表(各自の研究テーマと関連した内容で) 授業プランの作成と発表(教会教育、学校教育いずれかの領域で)				
【課題に対するフィードバックの方法】				
それぞれ「研究発表」「授業プラン発表」の授業の際に講評する。				
【成績評価方法・基準】				
講義内容に対する応答参加(40%)、研究発表(30%)、授業プラン(30%)による総合評価				
【履修上の注意】				
現在進行中の教育の問題や教会の課題に目を向け、現実と擦り合わせながら学びを進めてもらいたい。				

2020年度大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	キリスト教教育学特論Ⅱ	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	野口 真			
【講義の到達目標及びテーマ】				
キリスト教教育の原理や理論についての理解を深めつつ、現実の課題と向き合う力を強める。特に、現代日本におけるキリスト教教育の問題や課題と向き合い、その解決に向けた考察をおこなう。				
【講義概要】				
キリスト教教育の原理や理論について、自らの研究課題との関連を探り、さらに研究を深める。また、教会教育及び学校教育の実際に触れ(学校訪問、模擬授業など)、現在日本のキリスト教教育が抱える課題を明らかにし、その解決に向けた方策を探る。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション-本科目の概要と展開			
2	教育思想とキリスト教教育－自由主義教育			
3	教育思想とキリスト教教育－オルタナティブ教育			
4	教育思想とキリスト教教育－ケアの思想			
5	研究発表①－人権、平和の課題			
6	研究発表②－環境、生命の課題			
7	キリスト教教育の実際(学校訪問)－聖書科			
8	キリスト教教育の実際(学校訪問)－チャペル			
9	キリスト教教育の課題－教師論			
10	キリスト教教育の課題－教育内容			
11	キリスト教教育の課題－教育方法			
12	模擬授業①－教会教育			
13	模擬授業②－学校学校			
14	まとめ-残された課題とその展望			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
学校伝道研究会編「教育の神学」, ヨルダン社, 1987 その他の参考資料は講義の中で提示する				
【事前・事後学習、時間等】				
前時までに提示した課題について、各自で資料などにあたり、自分の考えや疑問をまとめた上で授業に臨むこと。				
【課題の種類・内容】				
研究発表(各自の研究テーマと関連した内容で) 模擬授業の準備と実施(教会教育、学校教育いずれかの領域で)				
【課題に対するフィードバックの方法】				
それぞれ「研究発表」「模擬授業」の授業の際に講評する				
【成績評価方法・基準】				
講義内容に対する応答参加(40%)、研究発表(30%)、模擬授業(30%)による総合評価				
【履修上の注意】				
現在進行中の教育の問題や教会の課題に目を向け、現実と擦り合わせながら学びを深めてもらいたい。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	教会心理学特論Ⅰ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	才藤 千津子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この授業では、教会心理学、教会ケアの代表的アプローチと方法を学ぶ。この授業の目標は以下の通りである。(1) 牧会の現場において出会う教会心理学、教会ケアに関わる代表的なアプローチを理解した上で、(2) 様々な問題の社会的、文化的、歴史的コンテキストを考察し、人々のニーズに応えるために心理学的資源や神学的資源を活用する方法を学ぶ。(3) 家族を家族システムという視点から理解し、その知識を家族や教会、個人への心理的支援に役立てる方法を学ぶ。(4) また、牧会にまつわる自分自身の経験を振り返り、牧会者としての自分のアイデンティティを吟味する。				
【講義概要】				
Dykstra, Images of Pastoral Care :Classic Readingsの第1部を使って教会ケアの代表的古典的アプローチを学んだ後、対人援助に用いられる手法の一つであるジェノグラム(家系図)を使って、家族というコンテキストのもとでの自分史、特に自分の信仰形成や宗教への関わり方について振り返る。この授業は参加型の授業であり、担当者の講義の他、受講生の発表とディスカッション、ロール・プレイや事例検討、映像資料の視聴などを組み合わせて行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション:この1年間の学びについて□			
2	教会心理学とは何か、その歴史			
3	教会学、教会心理学と神学、教会心理学の方法			
4	Images of Pastoral Care :Classic Readings 1. The Living Human Document, Anton Boisen			
5	Images of Pastoral Care :Classic Readings 2 Reclaiming the Living Human Document, Charles V. Gerkin			
6	Images of Pastoral Care :Classic Readings 3. The Living Human Web, Bonnie J. Miller-McLemore			
7	Images of Pastoral Care :Classic Readings 4. The Solicious Shepherd, Seward Hiltner			
8	Images of Pastoral Care :Classic Readings 5. The Courageous Shepherd, Alastair V. Campbell			
9	Images of Pastoral Care :Classic Readings 6. The Self-differentiated Samaritan, Jeanne Stevenson Moessner			
10	現代日本人と家族—家族の変化/発達、個人化志向、文化的多様性			
11	親子・きょうだい関係の心理学—自分の親子・きょうだい関係を振り返る			
12	家族システム論とは			
13	自分のジェノグラムを書く			
14	ジェノグラムの発表 (学生全員発表)			
【テキスト】				
Robert C. Dykstra, "Images of Pastoral Care :Classic Readings" (St. Louis: Missouri, Chalice Press, 2005)/早攄一男編『対人援助職のためのジェノグラム入門: 家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方』中央法規出版、2016年				
【参考書・参考資料等】				
Anton Boisen, Out of the Depth: An Autographical Study of Mental Disorder (NewYork: Harper & Brothers, 19356)/Bonnie J. Miller-McLemore and Brita L. Gill-Austern, Feminist and Womanist Pastoral Theology (Nashville: Abingdon Press, 1999)/Alastair V. Campbell, Rediscovering Pastoral Care (philadelphia: Westmionster Press, 1981)/Jeanne Stevenson Moessner, ed. Through the Eyes of Women: Insights for Pastoral Care (Minneapolis: Fortress Press, 1996), スワード・ヒルトナー(西垣二一訳)『牧会の神学—ミニストリーとシェパードイングの理論—』聖文舎、1975/チャールズ・V・ガーキン『教会学入門』越川弘英訳、日本キリスト教団出版局、2012年/M.マクゴールドリック&S.シェレンバーガー『ジェノグラム(家系図)の臨床—家族関係の歴史に基づくアセスメントと介入』石川元他訳 ミネルヴァ書房 2009年/平木典子・中金洋子『家族の心理—家族への理解を深めるために』サイエンス社 2006年/マイケル・E・カー、マレー・ボーエン『家族評価—ボーエンによる家族探求の旅』藤縄昭・福山和女監訳、金剛出版、2001年/団士郎『対人援助職のための家族理解入門—家族の構造理論を生かす』中央法規出版、2013年/早攄一男編『対人援助職のためのジェノグラム入門: 家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方』中央法規出版、2016年/Richardson, Ronald W. Becoming a Healthier Pastor: Family Systems Theory and the Pastor's Own Family (Creative Pastoral Care and Counseling Series), Minneapolis: MN, Fortress Press, 2005./Ronald W. Richardson, Creating a Healthier Church: Family Systems Theory, Leadership, and Congregational Life (Creative Pastoral Care and Counseling Series), Minneapolis: MN, Fortress Press, 1996./以上の他、適宜授業で紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
本科目は講義科目であり、授業各回に以下のような自主学習が求められる。 1 「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当箇所を、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度) 2 発表に当たった人は、発表のために自主的に準備を進め、ディスカッションのテーマを考えてくること(2時間程度)。それ以外のときは発表者への質問の用意をすること。 3 各回の授業をふりかえって、次の回の最初に質問をすること。				
【課題の種類・内容】				
第4回から9回までは、学生による発表とディスカッションによって授業を進める。発表にあたった学生は、テキストの指定箇所をまとめてレジュメにすること。 なお、ジェノグラムの書き方、小レポートのテーマなどについては授業中に説明する。□				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業の中で質問に答え、コメントを加える。教員との連絡は、授業前後の対応を基本とするが、授業時間以外で連絡をとる最も確実な方法はメールによる連絡である。				
【成績評価方法・基準】				
発表40%、小レポート1回20%、授業への取り組み40%				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	牧会心理学特論Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	才藤 千津子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この授業では、牧会心理学、牧会ケアの代表的アプローチと方法を学ぶ。この授業の目標は以下の通りである。(1)援助的人間関係において重要なことを学ぶ、(2)様々な問題の社会的、文化的、歴史的コンテクストを考察し、人々のニーズに応えるために心理学的資源や神学的資源を活用する方法を学ぶ。(3)牧会の現場で出会う様々な事例とその支援の方法を学ぶ。(4)また、牧会にまつわる自分自身の経験を振り返り、牧会者としての自分のアイデンティティを吟味する。				
【講義概要】				
牧会上の援助的人間関係において重要な事項を学んだ後、精神的な病を持つ人などへの牧会について事例を検討しながら学ぶ。また自分や周りの人の対人関係パターンを考える際に用いられる交流分析の基礎を学美、自分の対人関係のパターンについて振り返る。また、自分の牧会支援について逐語録を書き、クラスの仲間と検討する。この授業は参加型の授業であり、担当者の講義の他、受講生の発表とディスカッション、ロールプレイや事例検討、映像資料の視聴などを組み合わせて行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	援助的人間関係の基本①パストラル・プレゼンス、パストラル・ガイダンス			
2	援助的人間関係の基本②傾聴とは何か			
3	援助的人間関係の基本③対人援助の光と影			
4	牧会事例検討①気分の障害(うつ病・双極性障害)			
5	牧会事例検討②統合失調症			
6	牧会事例検討③発達障害			
7	牧会事例検討③がん患者とその家族			
8	牧会事例検討④終末期にある人とその家族			
9	牧会事例検討⑤大切な人を失った人や家族口			
10	対人関係パターンを考える～交流分析入門①			
11	対人関係パターンを考える～交流分析入門②			
12	対人関係パターンを考える～交流分析入門③			
13	牧会事例研究の方法			
14	受講生の牧会事例検討(逐語録提出)			
【テキスト】				
なし。必要な資料は授業中に配布する。				
【参考書・参考資料等】				
John Patton, Pastoral Care: The Essential Guide, Nashville, TN: Abingdon Press, 2005. / John Patton, From Ministry to Theology: Pastoral Action & Reflection, Eugene, Oregon: Wipf & Stock, 1995. / Carrie Doehring, The Practice of Pastoral Care: A Postmodern Approach, Revised and Expanded Edition, Louisville, Kentucky: Westminster John Knox Press, 2015/ Melissa M. Kelley, Grief: Contemporary Theory and the Practice of Ministry, Minneapolis: Fortress Press, 2010/ Kenneth R. Mitchell, Herbert Anderson, All Our Losses, All Our Grievs: Resources for Pastoral Care, Louisville: Westminster John Knox Press, 1983. 賀来周一『自分を知る・他人を知る―交流分析を土台に』(キリスト新聞社、2016年)/ 杉田峰康『人生ドラマの自己分析―交流分析の実践』(創元社、1976年)/ 太田保之・上野武治編『学生のための精神医学[第3版]』(医歯薬出版、2014年 諸富祥彦『はじめてのカウンセリング入門上―カウンセリングとは何か』(誠信書房、2010年)/ 諸富祥彦『はじめてのカウンセリング入門下―ほんものの傾聴を学ぶ』(誠信書房、2010年)/ 小此木啓吾『対象喪失―悲しむということ』(中公新書)中央公論新社、1979年/ スコット・ジョンソン『悲しみに押しつぶされないために―対人援助職のグリーフケア入門』水澤都加訳、(大月書店、2010年)/ 藤掛明、小淵朝子、村上純子編著『牧会相談の実践―カウンセラーと共に考える』(あめんどう、2014年)/ 以上の他、適宜授業で紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
本科目は講義科目であり、授業各回に以下のような自主学習が求められる。 1 「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当箇所を、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度) 2 発表に当たった人は、発表のために自主的に準備を進め、ディスカッションのテーマを考えてくること(2時間程度)。それ以外のときは発表者への質問の用意をしてくること。 3 各回の授業をふりかえって、次の最初に質問をすること。				
【課題の種類・内容】				
発表にあたった学生は、テキストの指定箇所をまとめてレジュメにすること。なお、逐語録の書き方、小レポートのテーマなどについては授業中に説明する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
授業の中で質問に答え、コメントを加える。教員との連絡は、授業前後の対応を基本とするが、授業時間以外で連絡をとる最も確実な方法はメールによる連絡である。				
【成績評価方法・基準】				
発表40%、小レポート1回20%、授業への取り組み40%				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

神学 神学研究科 神学専攻

講義科目名	神学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	才藤 千津子				
【講義の到達目標及びテーマ】 前期は、現代の実践神学の主な研究方法について学び、それをどのように自分の研究や実践に生かすことができるかを検討した後、キリスト教教育と子どもや若者への牧会をめぐる諸問題を検討する。後期は、キリスト教の霊性とマインドフルネス をめぐる諸問題を検討する。 をめぐる諸問題について考察する。 1年にわたって、キリスト教教育と子どもや若者への牧会をめぐる諸問題、キリスト教の霊性とマインドフルネス をめぐる諸問題について考察する。加えて、前期は、Bonnie J. Miller-McLemore ed.,The Wiley Blackwell Companion to Practical Theology の中から実践神学の研究方法について述べた章を読み、それをどのように今後の自分の研究や実践に生かせるかを考察する。後期は、P. シェルドレイク『キリスト教霊性の歴史』を読み、キリスト教の歴史の中でキリスト教の霊性とはどのようなものであったかを考察する。講師による講義のほか、学生による発表とディスカッションによって授業を進める。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	オリエンテーション		15	修士論文の構想発表	
2	テキスト Part 2 Method 8. Case Study Method		16	テキスト 序論 霊性とは何か	
3	テキスト Part 2 Method 9. Psychological Theory		17	テキスト 第1章 霊性の基礎—聖書	
4	テキスト Part 2 Method 10. Hermeneutical Theory		18	テキスト 第1章 霊性の基礎—初期の教会	
5	テキスト Part 2 Method 12. Congregational Studies		19	テキスト 第2章 修道制的パラダイム	
6	テキスト Part 2 Method 15. The Use of Scripture		20	テキスト 第3章 都市における霊性	
7	テキスト Part 2 Method 18. Feminist Theory		21	テキスト 第4章 宗教改革時代における霊性(ルター)	
8	テキスト Part 2 Method 20. Narrative Approaches		22	同上 (イグナティウス・デ・ロヨラ)	
9	テキスト Part 2 Method 21. Ethnography		23	テキスト 第5章 理性の時代における霊性	
10	テキスト Part 2 Method 22. Participatory Action Research		24	テキスト 第6章 モダニティからポストモダニティへ	
11	キリスト教学校における聖書科教育(1)教育と牧会ケア		25	マインドフルネス とは何か	
12	キリスト教学校における聖書科教育(2)黙想と祈り		26	教育におけるマインドフルネスの実践	
13	修士論文のテーマについて		27	キリスト教学校におけるマインドフルネスの実践	
14	修士論文の研究方法について		28	1年間の振り返りとまとめ	
【テキスト】 Bonnie J. Miller-McLemore ed.,The Wiley Blackwell Companion to Practical Theology (West Sussex, UK: Wiley-Blackwell, 2014)/ P. シェルドレイク『キリスト教霊性の歴史』教文館、2010年					
【参考書・参考資料等】 授業中に提示する					
【事前・事後学習、時間等】 本科目は演習科目であり、授業各回に以下のような自主学習が求められる。 1 「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されているテキストの該当箇所を読んでくること。(2時間程度) 2 発表のために指定された箇所を要約し、ディスカッションのテーマを考えてくること(2時間程度)。					
【課題の種類・内容】 1「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当箇所を、講義前に必ず読んで理解してくる。 2授業についての理解の程度を確認するために、中間レポートを1回提出すること。詳細は授業の中で説明する。					
【課題に対するフィードバックの方法】 授業の中で質問に答え、コメントを加える。教員との連絡は、授業前後の対応を基本とするが、授業時間以外で連絡をとる最も確実な方法はメールによる連絡である。					
【成績評価方法・基準】 発表40%、中間レポート1回20%、授業への取り組み40%					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	キリスト教音楽特論Ⅰ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	麦野達一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
キリスト教は音楽と共に発展してきた宗教である。教会の歩みも音楽を切り離しては考えられない。日本の教会でも礼拝を中心に音楽は重要な位置を占めてきた。その中で讃美歌集が作成され、教会の賛美を豊かに受け継いできた。讃美歌集と一言で言っても、それぞれの讃美歌には生み出された背景や神学がある。日本の主要教派の賛美歌作成のプロセスを広く学び、教会が賛美することについて深く考察していきたい。				
【講義概要】				
日本キリスト教団出版局が発行している『講座 日本のキリスト教芸術 音楽』を主テキストとして項目ごとに読み進めていく。テキストの内容をもとに教派ごとの賛美についての考え方や用いられ方、賛美歌集の編纂のプロセスを辿り、教派間の共通点や相違点などを見出しつつ、バプテストの賛美とも比較しながら教会音楽について理解を深めていく。講義は一方的な形ではなく、出席者による対話を中心におき、時には賛美を歌うことも行いたい。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	教会音楽とは何か。教会音楽をどう考えるか。序論(pp.11～17)			
2	カトリック教会の聖歌①(pp.21～35)			
3	カトリック教会の聖歌②(pp.35～41)			
4	聖公会の改訂聖歌集①(pp.42～50)			
5	聖公会の改訂聖歌集②(pp.50～67)			
6	改革教会と詩編歌①(pp.68～83)			
7	改革教会と詩編歌②(pp.83～91)			
8	『讃美歌21』と21世紀①(pp.92～103)			
9	『讃美歌21』と21世紀②(pp.103～116)			
10	『新聖歌』①(pp.117～125)			
11	『新聖歌』②(pp.125～136)			
12	礼拝改革と『讃美歌21』(pp.145～155)			
13	『こどもさんびか』①(pp.156～167)			
14	『こどもさんびか』②(pp.167～179)			
【テキスト】				
責任編集 横坂康彦『講座 日本のキリスト教芸術 音楽』日本キリスト教団出版局、2006				
【参考書・参考資料等】				
日本カトリック典礼委員会『典礼聖歌』カトリック中央協議会、2019 日本聖公会『日本聖公会聖歌集』聖公会出版、2006 讃美歌委員会『讃美歌』日本基督教団出版局、1954 日本基督教団讃美歌委員会『讃美歌21』日本基督教団出版局、1997 日本福音連盟新聖歌編集委員会『新聖歌』教文館、2001 日本基督教団讃美歌委員会『こどもさんびか』日本キリスト教団出版局、2002				
【事前・事後学習、時間等】				
単元ごとの当該ページを必ず事前に読み、大まかな内容を把握すると共に、疑問点をあげた上で授業に臨むこと。				
【課題の種類・内容】				
この授業は共同研究の形をとる。自分の研究を授業で発表することを課題とする。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表に対して講師や他のメンバーから授業内にフィードバックを行う。				
【成績評価方法・基準】				
授業への参加度、研究の内容によって評価する。				
【履修上の注意】				
授業で学ぶことを実際の「教会でどう活かすことができるか」という視点を常に持つておくことが必要。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	キリスト教音楽特論Ⅱ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	麦野達一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
キリスト教は音楽と共に発展してきた宗教である。教会の歩みも音楽を切り離しては考えられない。日本の教会でも礼拝を中心に音楽は重要な位置を占めてきた。その中で讃美歌集が作成され、教会の賛美を豊かに受け継いできた。讃美歌集と一言で言っても、それぞれの讃美歌には生み出された背景や神学がある。日本の主要教派の賛美歌作成のプロセスを学びつつ、バプテストの群れから生み出された『新生讃美歌』についての歴史、課題、活用法について学び、牧会の現場で賛美歌を十分に活用できるように備える。				
【講義概要】				
日本キリスト教団出版局が発行している『講座 日本のキリスト教芸術 音楽』と日本バプテスト連盟発行の『新生讃美歌ブックレット』『新生讃美歌ハンドブック』を主テキストとして項目ごとに読み進めていく。テキストの内容をもとに教派ごとの賛美についての考え方や用いられ方、賛美歌集の編纂のプロセスを辿り、教派間の共通点や相違点などを見出しつつ、バプテストの賛美とも比較しながら教会音楽について理解を深めていく。講義は一方的な形ではなく、出席者による対話を中心におき、時には賛美を歌うことも行いたい。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	琉球讃美歌①(pp.180～192)			
2	琉球讃美歌②(pp.192～210)			
3	在日の賛美歌①(pp.211～219)			
4	在日の賛美歌②(pp.220～232)			
5	新しいゴスペル①(pp.233～244)			
6	新しいゴスペル②(pp.245～255)			
7	新生讃美歌ブックレット① より良い礼拝賛美をもとめて(pp.7～21)			
8	新生讃美歌ブックレット② 賛美科の「ことば」の取り組み(PP.22～38)			
9	新生讃美歌ブックレット③『新生讃美歌』を知ろう(pp.39～48)			
10	新生讃美歌ブックレット④ より良い賛美をささげるために(pp.49～62)			
11	新生讃美歌ブックレット⑤ 新しい歌を歌おう！(pp.63～72)			
12	新生讃美歌ブックレット⑥『新生讃美歌』の用語解説(pp.74～92)			
13	新生讃美歌ブックレット⑦ 使い方のヒントと著作権について(pp.93～114)			
14	新生讃美歌ハンドブック			
【テキスト】				
責任編集 横坂康彦『講座 日本のキリスト教芸術 音楽』日本キリスト教団出版局、2006 日本バプテスト連盟宣教部教会音楽室『新生讃美歌ブックレット』日本バプテスト連盟宣教部、2018 日本バプテスト連盟宣教部教会音楽室『新生讃美歌ハンドブック～オリジナル創作賛美歌～』日本バプテスト連盟、2012				
【参考書・参考資料等】				
『新生讃美歌』日本バプテスト連盟				
【事前・事後学習、時間等】				
単元ごとの当該ページを必ず事前に読み、大まかな内容を把握すると共に、疑問点をあげた上で授業に臨むこと。				
【課題の種類・内容】				
この授業は共同研究の形をとる。自分の研究を授業で発表することを課題とする。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
発表に対して講師や他のメンバーから授業内にフィードバックを行う。				
【成績評価方法・基準】				
授業への参加度、研究の内容によって評価する。				
【履修上の注意】				
授業で学ぶことを実際の「教会でどう活かすことができるか」という視点を常に持つておくことが必要。				

2022年度 大学院シラバス

神学研究科 神学専攻

講義科目名	臨床牧会実習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
			2	日本語
担当教員名	松見享子			
【講義の到達目標及びテーマ】				
・病床にある人への牧会的配慮に必要な基本的な姿勢・態度と他者理解のためのコミュニケーションスキルを習得する。 ・近年、医療や介護の現場を中心に、その重要性が指摘されている「スピリチュアルケア」について実践的に学習する。 ・対人関係構築を通して相手を理解しようとする試みの内に、自分自身を見つめ直し、自己理解を深める。				
【講義概要】				
将来、キリスト教会あるいは医療機関などで牧会の働きに立つことを希望している学生が、病床にある人への牧会的配慮のあり方を学ぶために、傾聴のあり方、病院において適切であると考えられる基本的態度などを演習と医療機関での実習を通して習得する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	オリエンテーション:臨床牧会実習の目的			
2	傾聴とは何か:自己理解と他者理解			
3	傾聴訓練(ロールプレイング)			
4	スピリチュアルケアの基礎知識			
5	キリスト教の死生観			
6	逐語録作成および検討			
7	実習(1)病室訪問の心得・車いすの使い方と誘導			
8	実習(2)病床訪問・逐語録作成および検討			
9	実習(3)病床訪問・逐語録作成および検討			
10	実習(4)病床訪問・逐語録作成および検討			
11	実習(5)病床訪問・逐語録作成および検討			
12	事例研究(1)			
13	事例研究(2)			
14	個別面談・今後の課題設定			
【テキスト】				
(1)窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』(三輪書店、2000)				
(2)E.キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』(読売新聞社、1998)または、E.キューブラー・ロス『続・死ぬ瞬間』(読売新聞社、1999)のいずれか1冊				
上記2冊を事前に必読のこと。				
【参考書・参考資料等】				
事前に提示する参考文献リストの中から、上記以外に1冊以上必読のこと。				
【事前・事後学習、時間等】				
指定された文献の講読、模擬面談及び逐語録作成(1回) ※詳細は履修登録者に事前に通知する。				
【課題の種類・内容】				
ワークショップを含む講義及び医療機関での実習				
【課題に対するフィードバックの方法】				
口頭及び記述によって行う。				
【成績評価方法・基準】				
作成された逐語録とそれに対する自己分析の内容、実習に臨む態度・姿勢、その他課題達成度を総合して評価。なお、達成度によっては医療機関における実習を許可しないことがあり得る。その際には、さらに所定回数の逐語録の提出をもって評価する。				
【履修上の注意】				
・将来、キリスト教会あるいは医療機関などで牧会の働きに立つことを希望している学生を対象とする。 ・事前に提示された全課題を必ず達成した上で受講すること。・全日程出席を原則とする。				

西南学院大学 大学院課 大学院事務室

〒814－8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092－823－3368

FAX 092－823－3348

e-mail gra-jimu@seinan-gu.ac.jp

